

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	評価項目の12項目中9項目について、十分達成することができた。「おおむね達成」の状況である3項目については、以下のようにして改善を図っていく。 ・「いじめの早期発見、早期対応体制の充実」については、道徳をはじめ朝の会・帰りの会を中心とした教育活動全体において、心の教育の充実を行っていくとともに、被害者・加害者の背景を理解しながら、生徒の心に寄り添った指導を行う。また「チーム学校」としての組織力を高め、早期発見・早期対応に努める。 ・「部活動の推進」については、地域部活動への移行を視野に入れ、練習における効率的かつ質の向上を図りながら、生徒の主体性を育む。 その他、今後より力点を置いて指導すべき内容として、以下のような取り組みを行っていく。 ・思考力・判断力・表現力を高めるために、協働学習に取り組みせるとともに、校内研修等で効果的な指導方法について検証を行いながら共通理解・共通実践する。
2 学校教育目標	自立の精神に満ちた豊かな人間力の育成
3 本年度の重点目標	(1) 豊かな人間性と社会性の育成 (2) 確かな学びの充実 (3) 主体的な活動の推進 (4) 地域との共生と創造性の育成

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1) 共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組						評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○生徒にとって魅力的だと思えるよう めあての提示と教材を工夫し、学ぶ意 欲が高まったと回答する生徒の割合を 70%以上にする。	□「めあて」の板書については、生徒たちが理解できる具体的な 目標にする。 教材については課題の難易度を意識する。						・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	○思考力・判断力・表現力の深まりを目 指す授業の実践	○「対話学習」を取り入れたことで、自 分の考えが深まったり広がったりした」 に、肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にする。	□「対話学習」については、話し合いの目的や進め方、時間などを示し て、主体的に学び合わせる。						・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	○家庭と連携した学習環境づくり	○平日の家庭学習時間が1時間以上にな る生徒の割合を80%にする。	□学活において、自分の学習方法や計画について検討改善する 機会を、学期の当初に1回ずつ設定する。 □家庭学習において課題の出し方を工夫する。						・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する 心、他者への思いやりや社会性、倫理 観や正義感、感動する心など、豊かな心 を身に付ける教育活動	○全学級「道徳」の授業を保護者等へ公 開する。 ○特別の教科「道徳」の指導法に係る研 修会を年1回以上実施する。	□道徳の授業年間35時間にしっかりと教師が取り組む。 □講師招聘による「考え・議論する道徳」に関わる職員研修会を 行う。						・道徳教育推進教員	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の 充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめ の防止のための取組、事案対処等）に ついて組織的対応ができていると回答し た教員の割合を80%以上にする。	□早期発見・早期対応できるように、生徒の変化や様子につい て、こまめに情報交換を行い、共通理解する会議も月に1回設け る。 □いじめの対応についての研修会を年間1回以上行う。						・生徒指導主事	
	◎生徒が夢や目標をもち、実現に向け て意欲的に取り組もうとするための教育 活動の推進	○「先生はあなたのよいところを認めてく れていると思う」と回答した児童生徒 80%以上にする。 ○「将来の夢や目標を持っている」につ いて肯定的な回答をした児童生徒70% 以上にする。	□1年生は職業調べや職場見学などを通して、2年生は職場体験など を通して、3年生は全校のリーダー的行事、立志式などを通して、将来 の夢や目標について考え、深める機会をもつ。 □1月に、全学年の生徒に、今年の抱負や目標を決めさせ、夢を実現 させるためにはどのようにすればよいかを具体的に確認させ、1年間の 見直しをもたせる。						・進路指導主事 ・各学年主任	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力 の育成	○「健康に良い食事をしている」児童生 徒90%以上にする。	□朝食の大切さについての学習や掲示板などによる啓発を学期 に1回以上行う。 □月ごとに食育だよりなどで家庭への協力を呼び掛ける。						・食育・給食担当	
	○部活動の推進	○「部活動が充実している」と答える生 徒の割合95%以上にする。	□顧問・外部指導者・保護者との連携を密にし、部活動を充実さ せる。 □臨場による指導を増やし練習の質の向上を目指し、主体的に 練習に取り組むよう指導を行う。						・体育主任	
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時 間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。	□定時退勤日、学校閉庁日、部活動休業日の設定をする。 □これまで作成されたデータの有効活用を行う。 □校務分掌の細分化および輪番制により負担を軽減する。						・管理職	
	○教職員の連携促進	○明るい職員室づくりを目指し、使命感 と情熱にあふれ、教師力の向上に努め る職員集団を目指す。	□朝礼や業務上のコミュニケーションを大事にし、それぞれの業 務の進捗等の情報を共有し、チームで協力して業務を遂行できる ようにする。 □時間外の時間を削減するため、会議や事務の効率化を図る。						・管理職	
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		学校関係者評価	
評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価		評価	
○教育の質の向上に向け たICT活用教育の実施	○ICT機器を利用した学ぶ意欲を高める 指導の工夫	○タブレットPCやICT機器を使った学習 時間を年間100回以上行う。	□タブレットPCを使った学習については、掃除終了後に全学級確 実に行う。 □電子黒板と生徒用タブレットPCを活用した授業研究会を実施す ると共に、有効活用について研修を行う。						・情報教育推進教員	
○地域と学校の協働による 学校づくり	○地域と学校の相互の関わりを深める 教育活動の推進（コミュニティ・スクール）	○地域人材を活用した授業や行事を年 5回以上実施する。 ◇情報公開を推進し、学校HPの更新回 数を月に5回以上行う。	□学校運営協議会を開催し、地域人材を生かした教育実践がで きるように、連絡調整を密に行う。 □地域の講師を招聘し、地域の伝統文化の継承を行う。 □学校HPや配信メールにより常に新しい情報を豊富に提供す る。 □学校だよりや学級だよりを定期的に発行する。						・教頭 ・教務主任	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
----------------------------	--